

蒲生干潟の植物⑩

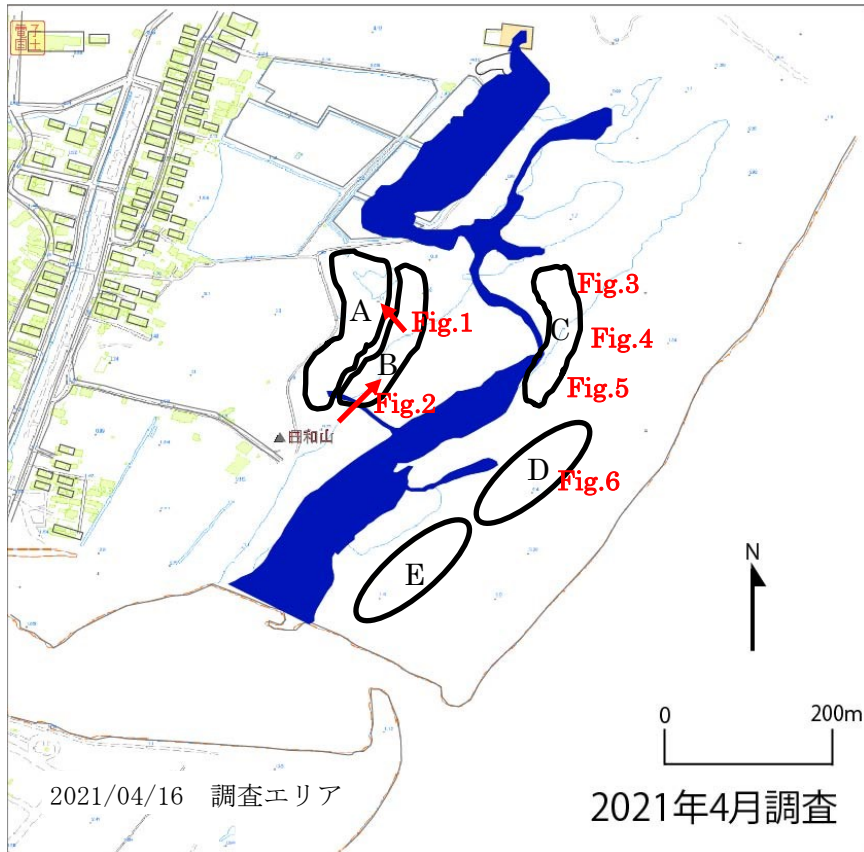


Fig.1 エリアAを南東側から撮影



Fig.2 エリアBを南西側から撮影



Fig.3 エリアCで撮影



Fig.4 エリアCで撮影



Fig.5 エリアCで撮影



Fig.6 エリアGで撮影

調査日時：2021年4月16日（金）9:30～11:30，天気：晴れ

植物の分布に注目しながら、潟湖周辺の植生を調査した。Fig.1のように、エリアAを南東方面から見ると枯れたヨシ原が広がっていた。そのヨシ原より水辺に近いエリアBでは、昨年花を咲かせたハマツナが立ち枯れている合間に、ハマツナの淡い緑の新芽が生えてきている（Fig.2）。エリアCには、コウボウムギ、ハマニンニク、コウボウシバが群生していた。穂や葉の一部分は枯れていたが、根元から新しい葉が青々と生えてきている様子が見られた。（Fig.3～Fig.5）。足下を見ると、その砂地部分ではハマヒルガオやハマニガナの小さな若い葉がところどころ顔を出していた。エリアDでは、ハマエンドウが2か所に分かれて群生していた。エリアEには乾燥した砂地が広がり、ハマヒルガオやハマニガナの若い葉やコウボウシバなどが広く分布していた。水分の多い土地と少ない土地の植生の違いを見ることができた。